

保健体育の授業で、「わかる」「できる」を実感している生徒とそうでない生徒の比較

「保健体育の授業で、『わかる』ことで『できる』ようになったり、『できる』ことで『わかる』ようになったりしたことはありますか」(質問23)

これは、中学校の生徒質問紙調査に平成30年度から新たに加わった項目であり、平成29年3月に告示された学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善について示されたところである。「わかる」「できる」を生徒が実感できる保健体育の授業と、体力の向上や運動・スポーツに対する意識などとの関連について分析を行った。

保健体育の授業で、「わかる」「できる」を実感している生徒は、運動やスポーツに対する意識が高い

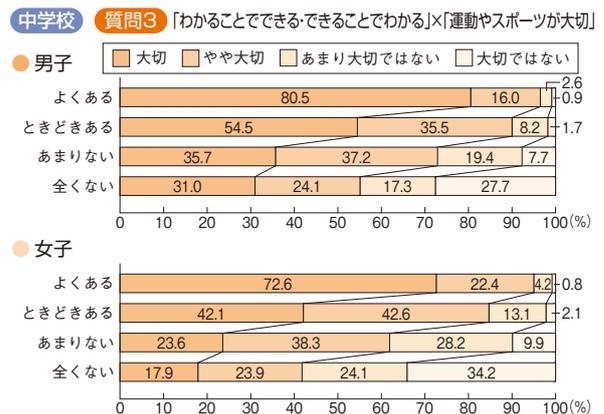
保健体育の授業で、「わかる」「できる」を実感している生徒とそうでない生徒のスポーツに対する意識などについて、生徒質問紙調査から分析を行った。「保健体育の授業で、『わかる』ことで『できる』ようになったり、『できる』ことで『わかる』ようになったりしたことがよくある」(質問23)(以下、「保健体育の授業で『わかる』⇔『できる』ようになった」と示す)と回答した生徒は、「全くない」と回答した生徒よりも、「運動やスポーツは大切」(質問3)と回答した割合が男子生徒で49.5ポイント、女子生徒で54.7ポイント高く(図T2-1)、「保健体育の授業で学習している内容は、将来の役に立つと思う」(質問28)と回答した割合が男子生徒で51.6ポイント、女子生徒で44.3ポイント高い(図T2-2)。

また同様に、「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う」(質問4)

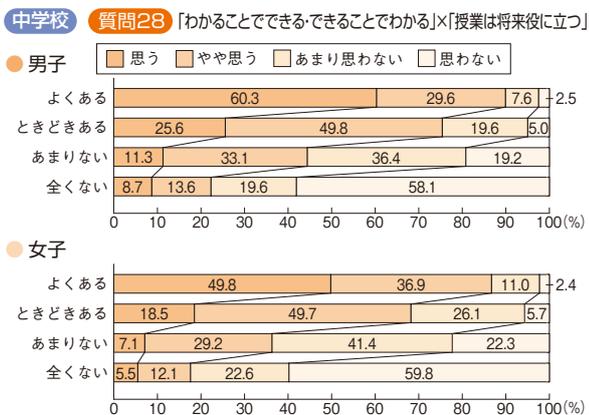
と回答した割合は男子生徒で49.2ポイント、女子生徒で54.5ポイント高い(図T2-3)。

これらの結果は、保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになったことがある生徒は、運動やスポーツに対する意識や意欲が高いことを示している。

【図T2-1】保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと運動やスポーツは大切とする価値観との関連



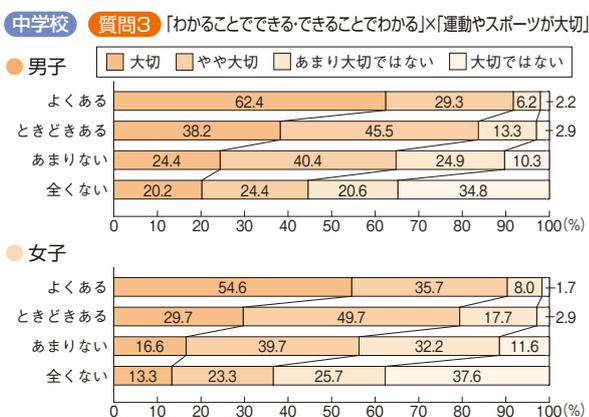
〔図T2-2〕保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと保健体育の授業で学習している内容は将来の役に立つとする価値観との関連



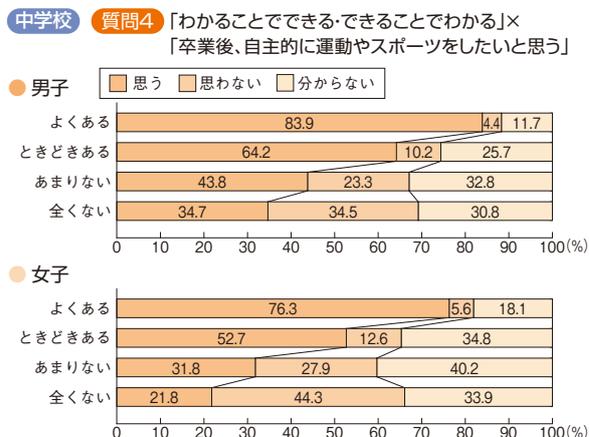
さらに、自分の体力・運動能力に自信がない生徒と運動やスポーツをすることが好きではない生徒のスポーツに対する意識について分析を行った。

「自分の体力・運動能力にあまり自信がない・自信がない」(質問2)と回答した生徒の中で、「保健体育の授業で『わかる』⇔『できる』ようになった」(質問23)と回答した生徒は、「全くない」と回答した生徒よりも「運動やスポーツは大切」(質問3)と回答した割合が男子生徒で42.2ポイント、女子生徒で41.3ポイント高く(図T2-4)、「保健体育の授業で学習している内容は、将来の役に立つと思う」(質問28)と回答した割合が男子生徒で45.0ポイント、女子生徒で37.2ポイント高い(図T2-5)。

〔図T2-4〕自分の体力・運動能力に自信がない生徒における、保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと運動やスポーツは大切とする価値観との関連



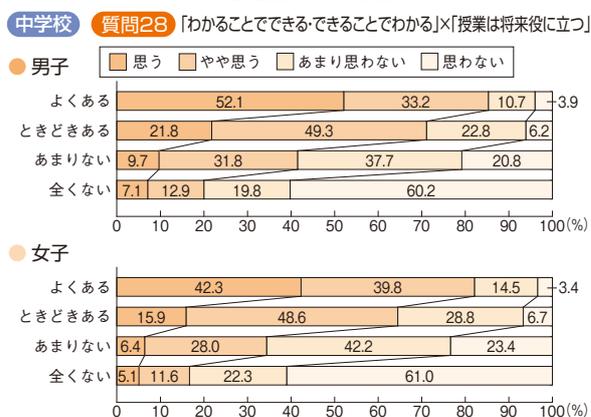
〔図T2-3〕保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う意欲との関連



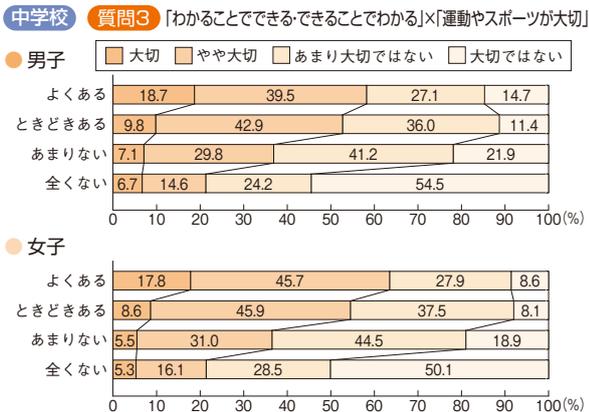
同様に、「運動やスポーツをすることがやや嫌い・嫌い」(質問1)と回答した生徒の中で、「運動やスポーツは大切」(質問3)と回答した割合は男子生徒では12.0ポイント、女子生徒では12.5ポイント高く、「保健体育の授業で学習している内容は、将来の役に立つと思う」(質問28)と回答した割合は男子生徒では30.2ポイント、女子生徒では25.0ポイント高い(図T2-6、図T2-7)。

これらの結果は、自分の体力・運動能力に自信がない生徒や運動やスポーツをすることが好きではない生徒についても、保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになったことがある生徒ほど運動やスポーツに対する意識が高いことを示している。

〔図T2-5〕自分の体力・運動能力に自信がない生徒における、保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと保健体育の授業で学習している内容が将来の役に立つとする価値観との関連



【図T2-6】 運動やスポーツをすることが好きではない生徒における、保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと運動やスポーツは大切とする価値観との関連



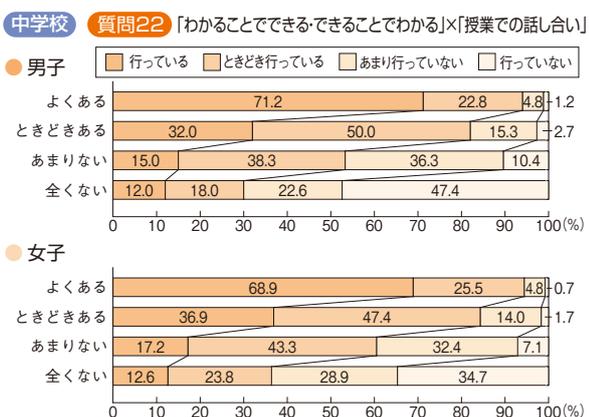
このように、運動やスポーツに対する肯定的な意識や意欲を高めるためには、「わかる」「できる」を生徒が実感できるように保健体育の授業の充実を図ることが大切である。

保健体育の授業で生徒同士の話し合いや助け合いを取り入れている学校は、「わかる」「できる」を実感している生徒が多い

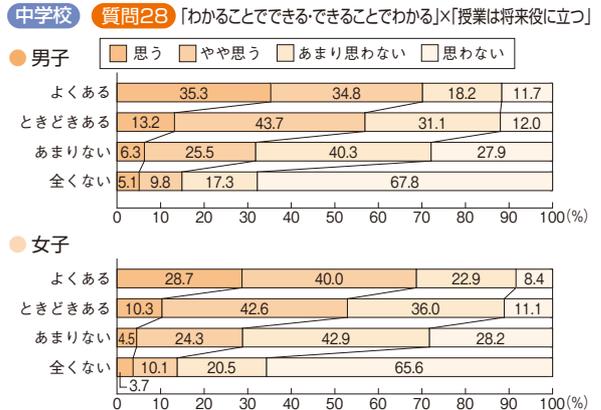
ここからは、「わかる」「できる」を生徒が実感できるような知識と技能の関連を図った保健体育の授業について、分析を行った。

茨城県下妻市立下妻中学校では、体の動かし方のポイントとなる用語を掲示したり、ICT機器を活用したりして、視覚的な知識の指導を工夫することにより、主体的な話し合い活動を促し、体の動きに対する理解を深めている（p.162 事例校参照）。

【図T2-8】 保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと、授業において友達やチームで話し合う活動との関連



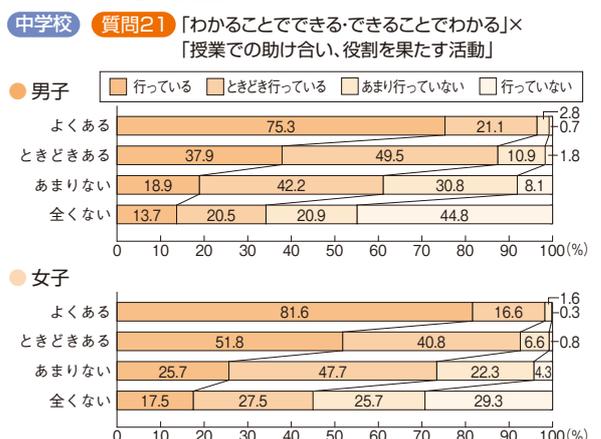
【図T2-7】 運動やスポーツをすることが好きではない生徒における、保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと保健体育の授業で学習している内容が将来の役に立つとする価値観との関連



さらに、このような授業の充実を図ることは、自分の体力・運動能力に自信がある生徒や、運動やスポーツをすることが好きな生徒を増やすことにもつながると期待できる。

また、授業に関する生徒質問紙調査を見ると、「保健体育の授業で『わかる』⇔『できる』ようになった」（質問23）と回答した生徒は、「全くない」と回答した生徒よりも、「友達同士やチームの中で話し合う活動を行っている」（質問22）、「友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っている」（質問21）と回答した割合が男女ともに50ポイント以上高い（図T2-8、図T2-9）。

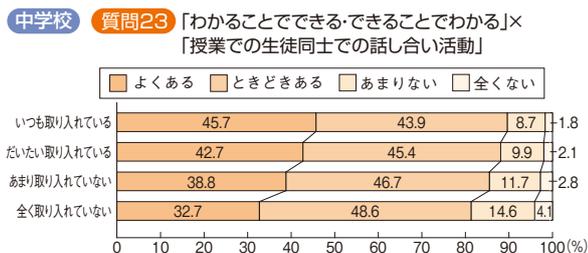
【図T2-9】 保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと、授業における友達との助け合いや役割を果たすような活動との関連



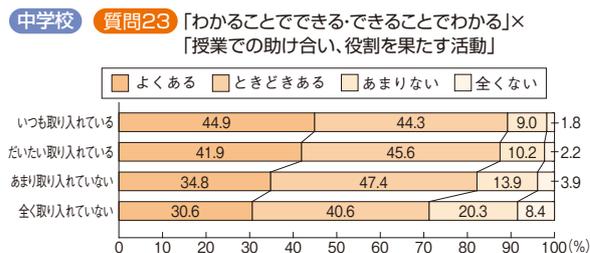
一方、学校質問紙調査において「生徒同士で話し合う活動をいつも取り入れている」（質問9）、「生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動をいつも取り入れている」（質問8）と回答した学校の生徒は、「全く取り入れていない」と回答した学校の生徒よりも、「保健体育の授業で『わかる』⇔『できる』よう

になった」（質問23）と回答した割合が男女ともに13～14ポイント程度高い（図T2-10、図T2-11）。これらの結果は、知識と技能の関連を図った指導と、友達同士やチームの中で課題の発見・解決などに向けて話し合う活動や、友達と助け合うなどの活動が、互いに関連し合っていることを示している。

【図T2-10】学校における生徒同士の話し合い活動の実施状況と、保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることとの関連



【図T2-11】学校における生徒同士での助け合いや役割を果たす活動の実施状況と、保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることとの関連



「わかる」「できる」を実感している生徒は体力合計点が高い

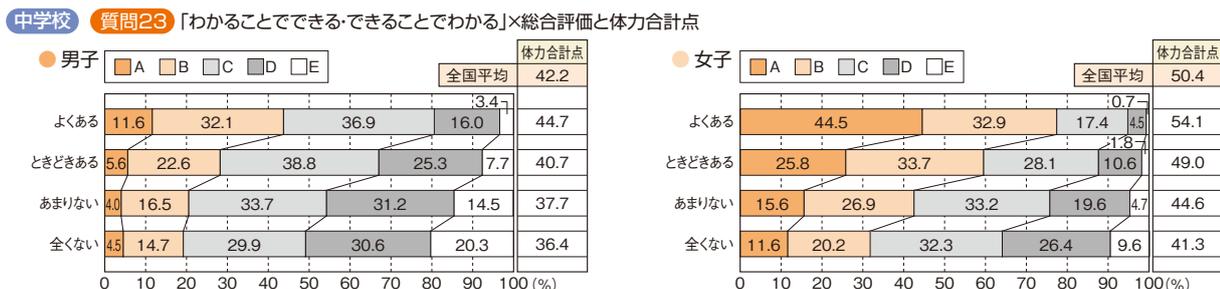
ここでは、体力合計点及び総合評価（体力合計点から体力・運動能力をA～Eの5段階で評価したもの）との関連について分析を行った。

「保健体育の授業で『わかる』⇔『できる』ようになった」（質問23）と回答した生徒の体力合計点は、

全国平均値よりも高く、「全くない」と回答した生徒の体力合計点よりも男子生徒では8.3ポイント、女子生徒では12.8ポイント高い（図T2-12）。

また、「よくある」「ときどきある」（質問23）と回答した生徒は、「あまりない」「全くない」と回答した生徒を、総合評価のA及びBの割合で上回り、D及びEの割合で下回っている。

【図T2-12】保健体育の授業で「わかる」⇔「できる」ようになった経験があることと総合評価・体力合計点との関連



まとめ

このように、保健体育の授業においては、「わかる」「できる」を生徒が実感できるような知識と技能の関連を図った指導を行うとともに、課題の発見・解決に向けて生徒同士が話し合ったり助け合ったりする活動の充実を図ることは、生徒の運動やスポーツに対する意識や意欲を高める他、体力の向上にもつながること

が期待できる。

平成29年に告示された学習指導要領でも、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することが重視されている。このような学習が、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成につながり、明るく豊かな生活を営む態度に結び付くものと考えられる。